# 致遠館SSH通信

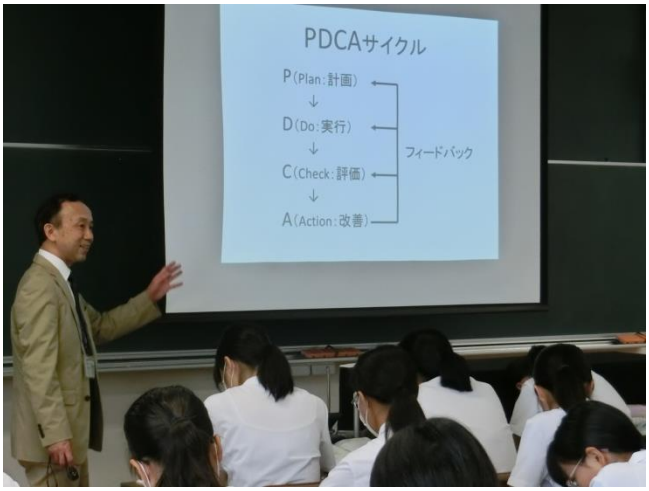
新しい価値の創造に向けて挑戦する科学的人材の育成を目指して

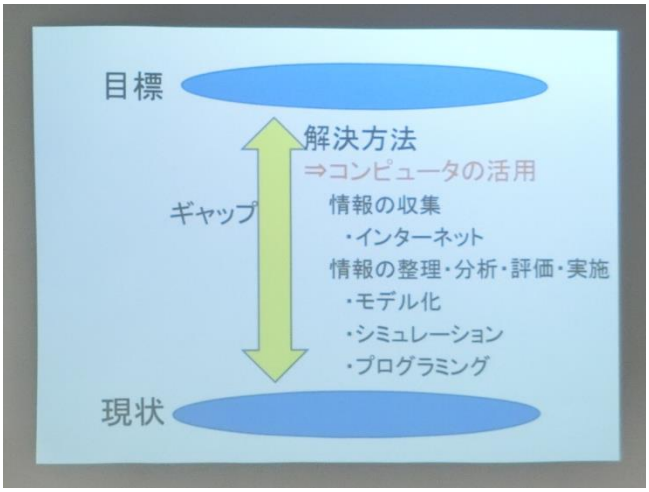
佐賀県立致遠館高等学校
佐賀県立致遠館中学校
ＳＳＨ研修部
平成 29 年 9 月 19 日発行　第 6 号


## 「プログラミング学習」が始まります

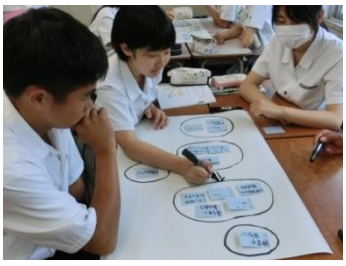
理数科２年生は、学校設定科目「ＳＳＨ情報」で、９月から１１月にかけて、「プログラミング学習」に取り組みます。この学習活動では、ＰＤＣＡサイクルによる課題発見・解決の経験を重ね、課題発見・解決に関わる資質・能力を身に付けるとともに、プログラミングに対する関心を高め、スキルを身に付け、課題研究に活用することを目的としています。

９月１４日（木）に、九州工業大学教養教育院長　西野和典　先生にお越しいただき、「問題解決の方法と手順」と題してプログラミング学習に係る講義をいただきました。まず、問題解決における問題の定義や問題解決の手順としてのＰＤＣＡサイクルなど、具体的な例を交えて説明していただきました。




次に、「ブレインストーミング」と「KJ 法」について演習を行いました。批判禁止、自由奔放、質より量、連想と結合の４つのルールに基づいて、身近な問題について解決方法を話し合い、問題解決に向けて論点を明確にする方法を体験しました。



今後のプログラミング言語を用いた学習活動にも積極的に取り組んでほしいと思います。

生徒の感想

- 「問題と言われたら、授業で解く問題であったり、もめごとなどの問題であったりと思っていた。現状と目標にギャップが生じていれば、それが「問題」であるということが分かった。」
- 「自分の中で曖昧だった問題の定義を、分かりやすく説明いただいたので、よく理解できた。問題解決のために重要なことは、問題の明確化だと感じた。他のステップも大切だと思うが、問題の明確化はそのすべてに関わっていくと思ったからだ。」
- 「改めて私自身の問題解決について考えたとき、ＰＤＣＡサイクルの”Plan”と”Do”はできているけれども、”Check”や”Action”があまりできていないように思いました。今日、”Ｃ”と”Ａ”が弱いことを自覚したので、これからは意識的に評価改善を行っていきたいと思います。」
- 「何事においても、問題を見付け解決をするためには、ＰＤＣＡサイクルが必要であることが分かりました。また、私にはフィードバックをする時間がもう少し必要であると思いました。」
- 「課題研究では、やりっ放し、失敗しっぱなしであることがあるので、失敗したらその都度その原因を考え理解して次につなげ、成功した場合もなぜそうなったのかということを考えていかなければいけないと思った。」